

令和3年度「ふくしまを知る連続講座」 実施報告

当館では県民の皆様の文化振興に寄与するため、「ふくしまを知る連続講座」を実施しています。ここでは今年度開催したものを簡単に紹介します。

第1回 「中通り地方の古墳時代遺跡 — 近年の調査成果から —」

講師：鶴見 諒平 氏（福島県文化財センター白河館まほろん 副主任学芸員）

開催日：令和3年6月26日（土）14：00～15：30 参加人数：44名

中通り地方の古墳と集落遺跡の近年の調査成果を紹介するとともに、出土した遺物などから見える当時の人々の生活や、遺跡立地の特性から明らかになってきた人の動き等についてお話しいただきました。福島県内で最も多くの古墳が確認されているのが中通りであり、集落遺跡の県内の調査事例はここ10年で増加傾向にあります。その中から複数の古墳、遺跡を取り上げてご説明いただきました。特に、須賀川市高木遺跡は弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代と多くの時代の遺構・遺物が発見された遺跡です。古墳時代においては、粘土塊に残ったイネの痕跡や祭祀跡などから、当時の人々の暮らしが伺えます。また、須賀川市団子山古墳の埴輪は、関東地方に同じ特徴をもったものが多くあることから、関東地方との関連を見ることができます。

後半では、福島盆地における古墳時代の遺跡の立地について、当時の阿武隈川の流路を踏まえつつ説明いただきました。古墳時代という文字資料が残っていない時代の遺跡を発掘し、遺物から当時の生活を読み解く過程を、参加者が熱心に耳を傾けている様子が見られました。

※この講座は、令和3年6月4日（金）～6月30日（水）にかけて当館で開催した企画展示「ようこそ 古墳時代へ！」の関連事業です。

第2回 「近世の武芸から近代の体育へ」

講師：山田 英明 氏（公益財団法人福島県文化振興財団 歴史資料課副主幹）

開催日：令和3年10月23日（土）14：00～15：30 参加人数：18名

近世、藩校などで教えられていた武芸が、近代になって体育の一部として再編成されていく過程をメインに、福島県内に伝わった歴史資料の紹介や木刀での古武術という実演を交えながらお話しいただきました。本来人を斬るためのものである武芸と、健康な身体の育成を目指す体育、根本的な目的の違いがある二つが、どのように関わり合いながら現在に繋がるのかのお話では、参加者から「武芸の歴史的背景が分かった」と好評でした。ほか、『体操 尋常第三学年 同第四学年』（渡部八郎文書）に載っている体操を実演し、当時の子どもたちが体育で行った動きを体験しました。後半では、講師の山田英明氏執筆の、県内に継承される武芸の歴史や逸話を紹介した記事「武芸の里を訪ねて」（『福島民友』2005.10.5～2006.3.29 隔週連載）を読みながら、相馬野馬追の起源や歴史を紹介いただきました。なお、県立図書館では新聞のバックナンバーを保管しており、記事「武芸の里を訪ねて」の閲覧が可能です。

※この講座は、令和3年10月8日（金）～11月3日（水）にかけて当館で開催した企画展示「習いの手引き～ふくしまの教育史料～」の関連事業です。

（企画管理部 佐藤妙）